



令和4年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

令和4年2月9日

上場会社名 新潟交通株式会社 上場取引所 東
コード番号 9017 URL <https://www.niigata-kotsu.co.jp>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 星野 佳人
問合せ先責任者（役職名） 経理部長（氏名） 保坂 健一 TEL (025)246-6327
四半期報告書提出予定日 令和4年2月10日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 令和4年3月期第3四半期の連結業績（令和3年4月1日～令和3年12月31日）

(1) 連結経営成績〔累計〕

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
4年3月期 第3四半期	11,059	—	△51	—	△148	—	△244	—
3年3月期 第3四半期	10,024	△29.9	△1,052	—	△1,011	—	△766	—

（注）包括利益 4年3月期第3四半期 △218百万円（—％） 3年3月期第3四半期 △747百万円（—％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
4年3月期 第3四半期	△63.69	—
3年3月期 第3四半期	△199.50	—

（注）「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、令和4年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。一方で、令和3年3月期第3四半期に係る各数値については遡及適用を行っておりませんので、令和4年3月期第3四半期の売上高の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
4年3月期 第3四半期	57,317	16,417	28.6	4,273.25
3年3月期	57,456	16,634	29.0	4,329.54

（参考）自己資本 4年3月期 第3四半期 16,417百万円 3年3月期 16,634百万円

（注）「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、令和4年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

(基準日)	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
3年 3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
4年 3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
4年 3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 令和4年3月期の連結業績予想（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	14,100	—	△400	—	△600	—	△700	—	△182.20	

（注1）直前に公表されている業績予想からの修正の有無：有

（注2）「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の令和4年3月期の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前期増減率は記載していません。

連結業績予想の修正については、本日（令和4年2月9日）公表いたしました「業績予想および配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

（注）詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

4年3月期3Q	3,864,000株	3年3月期	3,864,000株
4年3月期3Q	22,071株	3年3月期	21,836株
4年3月期3Q	3,842,037株	3年3月期3Q	3,842,195株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が続く中、ワクチン接種の普及が進むにつれ行動制限の緩和が見られる一方で、新たな変異株の感染症が急拡大するなど先行きは不透明な状況で推移しました。

こうした事業環境の中、お客様と従業員に対する感染防止対策を徹底しながら営業活動を行い、経営基盤の強化に努めてまいりました。その結果、前年同期に比べて需要回復の兆しが見られたものの、感染症拡大前の水準を下回る状況が続いております。

当第3四半期連結累計期間の総売上高は11,059百万円、営業損失は51百万円（前年同期は営業損失1,052百万円）、経常損失は148百万円（前年同期は経常損失1,011百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は244百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失766百万円）となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しております。

これに伴い、当第3四半期連結累計期間における経営成績に関する説明は、売上高については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、前第3四半期連結累計期間と比較しての対前年同四半期比（%）は記載しておりません。

セグメントの業績の概況は、次の通りであります。

○運輸事業

一般乗合バス部門では、日々の運行データをもとに令和3年11月20日にダイヤ改正を行い、利便性の向上に努めました。また、新潟交通路線バス一日乗車券「ぶらばすチケット（電子チケット）」が購入できる地域アプリ「りゅーとなび」を開設し需要喚起を図ったことや、行動制限の緩和による利用者増加により、一般乗合バス部門全体では前年同期比増収となりましたが、その回復は限定的となっております。

高速バス部門では、都市間高速において降雪による計画的な高速道路通行止めの影響に伴い一部路線で運休を行ったものの、行動制限の緩和による利用者増加により、高速バス部門全体では前年同期比増収となりました。

貸切バス部門では、「使っ得！にいがた県民割キャンペーン」の効果や、修学旅行を主とした学校関連を中心に受注したこと等により、前年同期比増収となりました。

この結果、運輸事業の売上高は5,002百万円となりました。

○不動産事業

9月にリニューアル工事が完了した万代シティにおいて、初開催となるクリスマスイベントを12月に開催する等、集客を高める販売促進や催事・イベントを企画実行して街区の新しい魅力の発信に努めたことや、行動制限の緩和による来街客の増加により、賃料収入および駐車場収入は前年同期比増収となりました。

この結果、不動産事業の売上高は2,086百万円となりました。

○商品販売事業

観光土産品卸売部門では、イベントや催事での商品販売が堅調に推移したものの、催事売店を撤退した影響等により、前年同期比減収となりました。

この結果、商品販売事業の売上高は1,117百万円となりました。

○旅行事業

旅行事業では、「使っ得！にいがた県民割キャンペーン」の効果による、募集型企画旅行（くれよん）の県内への旅行需要の取り込み及び修学旅行を主とした学校関連を中心に受注したこと等により、前年同期比増収となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」等を適用前に換算した場合においても前年同期比増収となりました。

この結果、旅行事業の売上高は903百万円となりました。

○旅館事業

新潟市内の「万代シルバーホテル」、佐渡市内の「国際佐渡観光ホテル八幡館」とともに引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊・宴会需要の低迷は続いているものの、「使っ得！にいがた県民割キャンペーン」の効果や催事団体客の受入等により売上高は前年同期比増収となりました。

この結果、旅館事業の売上高は687百万円となりました。

○その他事業

広告代理業においては、各種イベント関連の収入やバス広告等の広告収入が増収となったことにより好調に推移しました。「収益認識に関する会計基準」等の適用により、前年同期比減収となったものの、「収益認識に関する会計基準」等を適用前に換算した場合には前年同期比増収となりました。

航空代理業においては、ワクチン集団接種会場の運営業務を受託する等、新たな収益確保策を実施しましたが、国内線の減便が継続している影響もあり、前年同期比減収となりました。

清掃・設備・環境業においては、環境部門におけるリサイクル単価の上昇や定期収集、定期清掃等の受注により、前年同期比増収となりました。

この結果、その他事業全体の売上高は1,263百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、未収入金が減少したことなどにより、前期末に比べ138百万円減少し、57,317百万円となりました。

負債は、買掛金や預り金の増加などにより、前期末に比べ78百万円増加し、40,900百万円となりました。

また、純資産は、利益剰余金の減少などにより、前期末に比べ217百万円減少し、16,417百万円となり、自己資本比率は28.6%となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和4年3月期連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を合理的に算出することが困難であることから未定としておりましたが、現時点において入手可能な情報や予測等に基づき算定いたしました。

詳細につきましては、本日（令和4年2月9日）公表いたしました「業績予想および配当予想に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和3年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和3年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,442,732	3,071,942
受取手形及び売掛金	838,189	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	1,036,436
商品及び製品	173,314	191,866
原材料及び貯蔵品	153,567	160,172
その他	868,363	494,554
貸倒引当金	△12,351	△12,723
流動資産合計	4,463,815	4,942,249
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	11,703,624	11,950,408
土地	36,833,333	36,833,333
その他(純額)	2,756,007	2,000,077
有形固定資産合計	51,292,964	50,783,819
無形固定資産	322,026	317,998
投資その他の資産	1,377,597	1,273,549
固定資産合計	52,992,589	52,375,367
資産合計	57,456,405	57,317,617
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	575,579	834,334
短期借入金	13,337,229	10,934,844
1年内償還予定の社債	150,000	200,000
未払法人税等	83,746	42,908
賞与引当金	103,552	67,056
その他	2,610,009	2,886,256
流動負債合計	16,860,116	14,965,400
固定負債		
社債	3,550,000	3,500,000
長期借入金	12,929,544	15,312,169
再評価に係る繰延税金負債	4,013,733	4,013,733
役員退職慰労引当金	152,230	161,566
退職給付に係る負債	422,418	438,437
その他	2,893,575	2,508,796
固定負債合計	23,961,502	25,934,703
負債合計	40,821,618	40,900,104

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和3年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和3年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,220,800	4,220,800
資本剰余金	2,946,600	2,946,600
利益剰余金	1,220,663	977,976
自己株式	△37,754	△38,228
株主資本合計	8,350,311	8,107,150
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△15,419	△14,778
繰延ヘッジ損益	88,163	115,825
土地再評価差額金	8,210,910	8,210,910
退職給付に係る調整累計額	820	△1,594
その他の包括利益累計額合計	8,284,475	8,310,362
純資産合計	16,634,786	16,417,513
負債純資産合計	57,456,405	57,317,617

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年12月31日)
売上高	10,024,849	11,059,503
売上原価	8,367,351	8,396,640
売上総利益	1,657,498	2,662,863
販売費及び一般管理費	2,710,257	2,714,009
営業損失(△)	△1,052,759	△51,146
営業外収益		
受取利息	144	114
受取配当金	9,339	8,994
雇用調整助成金	317,084	163,203
その他	40,081	43,000
営業外収益合計	366,649	215,313
営業外費用		
支払利息	232,516	251,515
持分法による投資損失	1,595	1,693
資金調達費用	64,415	27,800
その他	27,333	31,512
営業外費用合計	325,859	312,521
経常損失(△)	△1,011,969	△148,354
特別利益		
固定資産売却益	3,964	3,171
補助金収入	60,424	174,150
その他	14	1,140
特別利益合計	64,403	178,462
特別損失		
固定資産売却損	2,053	2,572
固定資産除却損	8,907	187,026
新型コロナウイルス感染症対応による損失	69,936	6,697
その他	14,964	17,609
特別損失合計	95,862	213,904
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,043,428	△183,796
法人税、住民税及び事業税	27,390	29,630
法人税等調整額	△304,286	31,264
法人税等合計	△276,895	60,895
四半期純損失(△)	△766,532	△244,692
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△766,532	△244,692

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年12月31日)
四半期純損失(△)	△766,532	△244,692
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7,988	640
繰延ヘッジ損益	29,985	27,661
退職給付に係る調整額	△2,490	△2,415
その他の包括利益合計	19,506	25,887
四半期包括利益	△747,025	△218,804
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△747,025	△218,804
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は、以下のとおりです。

1. 旅行事業における本人取引に係る収益認識

旅行事業における収益につきましては、全て顧客から受け取る額から売上原価を控除した純額を収益として認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における当社の役割が本人に該当する取引については、顧客から受け取る対価の総額を収益として認識する方法に変更しております。

2. 広告代理業における代理人取引に係る収益認識

広告代理業における収益につきましては、顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における当社の役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る額から売上原価を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。

3. 運輸事業における追加の財又はサービスを取得するオプションの付与

運輸事業における当社が運営するポイント制度について、従来は、将来にポイントとの交換に要すると見込まれる費用を引当金として計上する方法によっておりましたが、当該ポイントが重要な権利を顧客に提供する場合、履行義務として認識し、収益の計上を繰り延べる方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に2百万円加算しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は40百万円減少し、営業費は42百万円減少しております。なお、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り

前連結会計年度の有価証券報告書における「(重要な会計上の見積り)」に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について、重要な変更はありません。

連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用

当社及び一部の国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自令和2年4月1日至令和2年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	運輸事業	不動産事業	商品 販売事業	旅行事業	旅館事業	計				
売上高										
外部顧客への売上高	4,554	2,014	1,187	166	624	8,548	1,476	10,024	—	10,024
セグメント間の内部 売上高又は振替高	89	306	20	36	10	464	435	899	△899	—
計	4,644	2,321	1,208	203	634	9,012	1,911	10,924	△899	10,024
セグメント利益又 は損失(△)	△1,453	845	△36	△147	△333	△1,124	124	△1,000	△52	△1,052

- (注) 1. 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、清掃・設備・環境業、広告代理業、航空代理業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自令和3年4月1日至令和3年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	運輸事業	不動産事業	商品 販売事業	旅行事業	旅館事業	計				
売上高										
外部顧客への売上高	5,002	2,086	1,117	903	687	9,796	1,263	11,059	—	11,059
セグメント間の内部 売上高又は振替高	27	302	19	214	11	575	306	881	△881	—
計	5,029	2,388	1,136	1,117	698	10,371	1,569	11,940	△881	11,059
セグメント利益又 は損失(△)	△688	791	△5	△85	△233	△222	170	△51	0	△51

- (注) 1. 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、清掃・設備・環境業、広告代理業、航空代理業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、「その他」に含まれていた「旅行事業」について量的基準を満たしたため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間の報告セグメントは、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。